

依頼論文

企画論文：社会から求められる歯科衛生士
—健康長寿を支える口腔管理の過去・現在・未来—

社会から求められる歯科衛生士 —健康長寿を支える口腔管理の過去・現在・未来—

峯 篤史^a, 松山 美和^b

Dental hygienists needed in society

—The past, present, and future of oral management for supporting a healthy and long life—

Atsushi Mine, DDS, PhD^a and Miwa Matsuyama, DDS, PhD^b

近年、人口構造の変化に伴いさまざまな社会制度が改革されている。医療はいわゆる cure から care へ変容し、さらに口腔保健事業が推進される中、歯科衛生士という専門医療職に対しても社会の期待が高まっている。

大半の歯科衛生士が歯科医院における診療補助業務をメインにしてきたため、「歯科衛生士＝診療補助」のイメージが強いものの、歯科衛生士に対する“社会的ニーズ”は変遷している。今日では口腔保健指導はもちろん、入院患者・居宅障害者・高齢者などに対する口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーションも含めた口腔機能管理が歯科衛生士に期待されている。また、地域と歯科・口腔保健をつなぐ重要な役割が歯科衛生士にもあると考えられ、その活躍の場は、病院歯科はもとより保健施設や福祉施設、行政機関などに広がっている。

本企画では、補綴歯科を専門とする歯科医師も歯科衛生士という専門医療職に対する社会的ニーズの変遷と今後の展望について再認識することにより、今後いかに協働・支援していくべきかを思案する。

まず、これまで変わり続けてきた歯科衛生士という職

とその広がり続けている世界を、金澤紀子会長に記して頂いた。最後の一文「60年余りの歩みを礎に、新たな道程が始まっていると考える。」は、本企画の趣旨を象徴していると言える。続いて歯周病専門医であられる林恵子先生に、歯科衛生士の現状を中心に執筆して頂いた。またワークライフバランスをキーワードに、離職した歯科衛生士の復職と臨床の場での歯科医師と歯科衛生士との協働についての実情が明らかにされている。

歯科衛生士の未来を見据える上で、その教育について考えることは非常に重要である。日高勝美教授の看護教育のあり方を参考にした論は興味深く、歯科衛生士がより多く教育や研究に携わること、総合病院・介護保険施設・行政機関・歯科関係企業等における歯科衛生士の就業機会が増加することが期待されている。最後に、松山美和教授には「自ら学び行動できる歯科衛生士」の教育・育成に取り組んでいる徳島大学歯学部口腔保健学科の実状を紹介して頂くとともに、歯科衛生士のキャリアアップについて深く考察して頂いた。さらに最終項では学会に対する提言を具体的に表現して本企画をまとめて頂いた。

題名および執筆者

「歯科衛生士の展望と課題—医療・介護との連携を目指して—」	日本歯科衛生士会	金澤紀子会長
「歯科医師と歯科衛生士の連携・協働の実際」	北九州市開業	林 恵子先生
「超高齢社会に求められる歯科衛生士のキャリア—教育・研究者の養成と義務のあり方を考える—」	九州歯科大学口腔保健学科学科長	日高勝美教授
「歯科医師としての歯科衛生士教育とキャリアアップ支援」	徳島大学歯学部口腔保健学科	松山美和教授

^a 大阪大学大学院歯学研究科クラウンブリッジ補綴学分野

^b 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔保健学講座口腔機能管理学分野

^a Department of Fixed Prosthodontics, Osaka University Graduate School of Dentistry

^b Department of Oral Health Care and Rehabilitation, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School